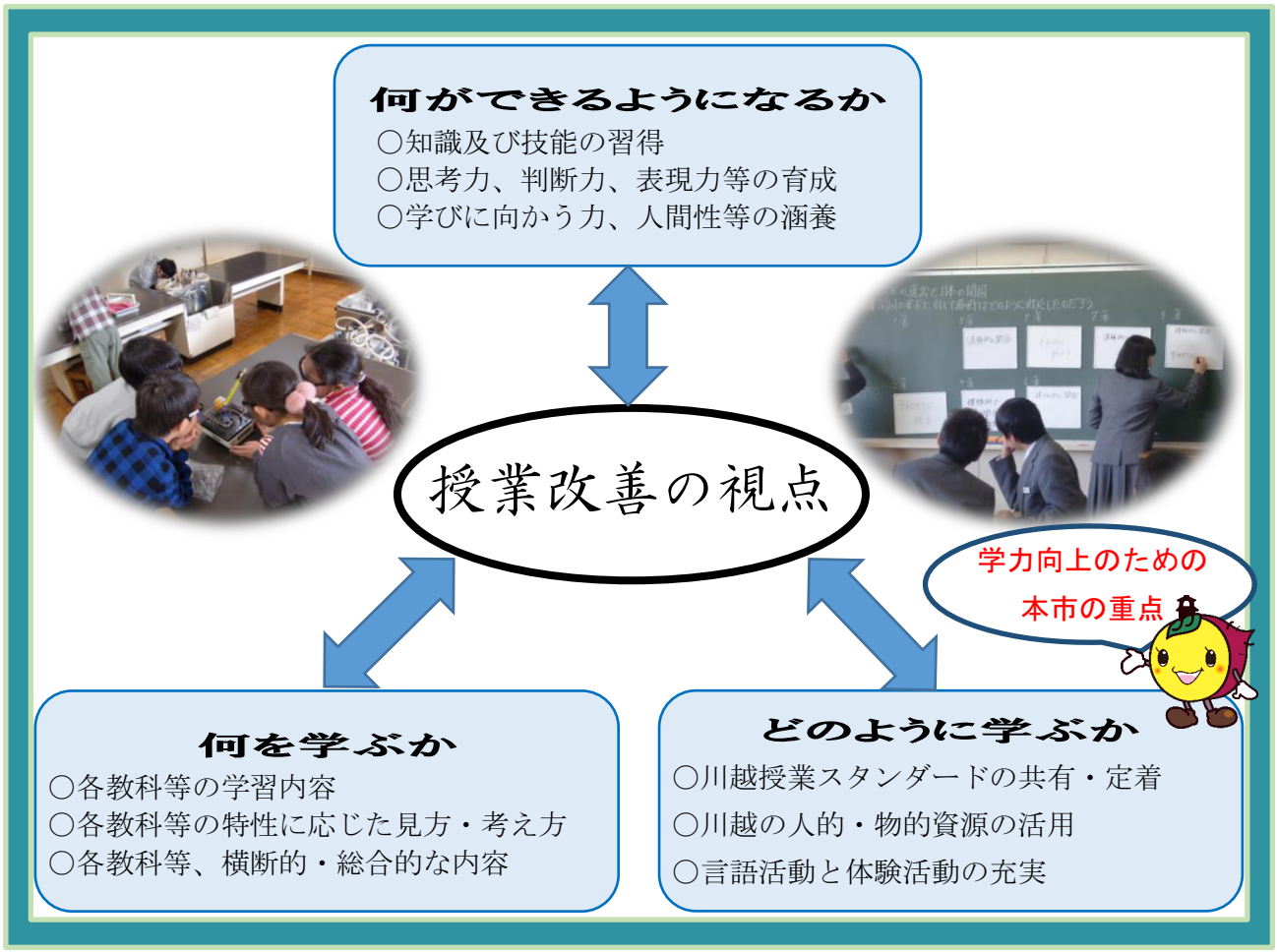
川越市小・中学生
学力向上プラン

志を高くもち自ら学び考え行動する子どもの育成



令和２年４月

川越市教育委員会

「学びの本質」に立つ授業スタンダードの具現化

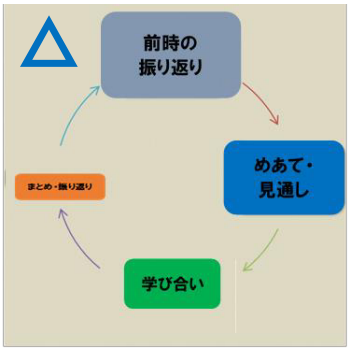
学びは、子どもの興味・関心から始まり、対話・協働を通して、最後は子どもに戻り、自身で深めていくものです。この過程を体験することに「学びの本質」はあります。教師は、この「学びの本質」を意識し、具現化した授業を行う役目があります。

「学びの本質」に立つ授業スタンダード

めあて 見通し → 学び合い → まとめ 振り返り

各教科等の特質を踏まえた「対話・協働による学び合い」

授業スタンダードの「学び合い」の場面は、「対話・協働」だけでなく「習得したことを個人で練習する時間」にもなります。各教科の特質に応じて、単元全体を通して「学び合い」や「練習」を組み合わせて授業を行うことが学力向上につながります。



1単位時間の授業の中で、「めあて・見通し」「学び合い」「まとめ・振り返り」を行うことで、学びの好循環をつくりましょう。

授業を充実させる教師の役割

教員には、児童生徒の「対話・協働による学び合い」がスムーズに進み、成果が上がるように支援する「ファシリテーター」の役割があります。

［教員の「ファシリテーター」としての役割の例］

①問いかけによって考えや意見を引き出す

・どうすればいいですか
・その意味をもう少し知りたいなあ

②合意に向けて論点を整理する

・ここで一度整理をします
・考え方がいくつ出ましたか

・こんな方法もありますよ
・こういうことも大切ですよ
・それならこうしたらどうかな

・別の方法はありませんか
・○○と△△（立場・視点）から考えられませんか

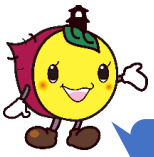
1−1　めあて

「めあて」は子どもにとって本時に何をするかがわかる段階であり、「本時の学習の確認」です。
そして、子どもの、「疑問・問題・興味・関心」などをめあてに変える場面です。

問題 → **めあて** → 見通し

金属は熱したところからあたたまりましたね。水はどうでしょうか？

水はどうなのかな？だから今日の問題は・・



例：問　水はどのようにあたたまるのだろうか。

何をすれば・・・そうです実験ですね！では、めあては・・

例：め　水のあたたまり方を実験でたしかめよう。

ここを確認！

まとめと正対していますか？

何をすればよいか、めあてを読めばわかりますか？

前時のふりかえりに時間がかかっていませんか？

1−2　見通し

「見通し」は、めあてを確認した子ども達が、自分の可能性や期待感を高めて、解決に向けて粘り強く取り組めるようになるための場面です。

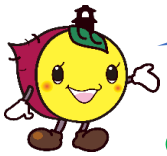
問題 → めあて → **見通し**

何を使えば解決できそうですか？紹介した道具の中に・・

温度で色が変わる液があるといいな・・そうだ
感熱液だ！大きなビーカーに入れよう！

どんな結果になりそうですか？

実験はどんな手順で行いますか？



そういえばお風呂は上の方が
温かい時があるから・・・！
まず、上をあたためてみよう！

時間も考えて計画しましょうね。

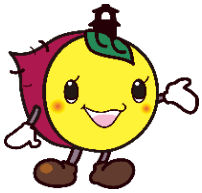
「めあて」が確認されて、
「見通し」が立てられる
様々な見通しがある
・方法の　見通し
・結果の　見通し
・手順の　見通し
・時間の　見通し　など
＊それらについての自分の可能性、期待や予感

2　対話・協働（学び合い）

「対話・協働」は、思いや情報、考えなどを共有し、相互理解や認識を深めたり、合意を形成したり、共に実践したりする営みや場面です。

学び合い → まとめ → 振り返り

各班の結果が出ましたね。結果をもとに考えていきましょう。



１班はこう考えたんだけど・・・他の班はどうなんだろう？

みんなの考えを共有し、結論に向けて一緒に考えると
よりよい答えが出せそうですね。

しかし、思いや情報、考えは見えない → ポイントは **可視化**

思いや情報、考えなどを共有

どのように表現をさせるのか、どのような道具を活用すればよいのかを検討する

手立ての例

・グループの思考過程や結論をホワイトボードへ

・個の考えをカードやふせんへ

・板書による発言や授業過程の整理　など

相互理解・認識の深化・合意形成

ねらいや目的に応じた手立てを検討する

手立ての例

・カードやふせんを比較、関連付け、分類してタイトルをつける

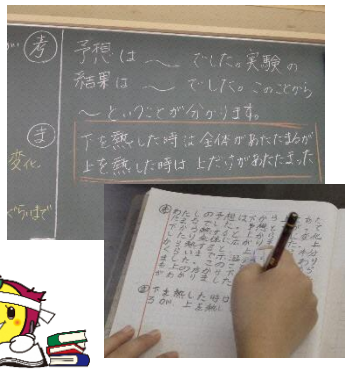
・考えや意見を選択、順位をつける　など

可視化は思考を共有し深める有効な手立て
対話・協働を通じて、広がった！まとまった！深まった！わかった！の実感へ

3－1　まとめ

学び合い → **まとめ** → 振り返り

「まとめ」は対話・協働を通じて、学んだことの整理や確認をします。



- 板書のキーワードなどを使って全員で行う
- ノート等に書いたり声に出したりする
- 「めあて」と対になる
- 教師の指導・助言が必要

※教科に応じては、まとめの後に
　練習問題などを組み入れることもあります

㊟　試験管の下を熱したときは、水全体があたたまるが、上を熱したときは試験管の上の部分の水だけがあたたまる。あたためられた水は動いているように見えた。

3－2　振り返り

学び合い → まとめ → **振り返り**

「振り返り」は、学びを自分のものとして定着させたり実感させたりします。

終末の静寂な場面で
ノート等に書かせます

［こんな視点で子どもの振り返りを読んでみましょう］

- 理解の状況の自己診断
  「とてもよく分かった」
- 取組の姿勢・態度の自己診断
  「最後までがんばった」
- 学びの過程の自己診断
  「初めは分からなかったけれど」
- 理解の捉え直し
  「もっとよいやり方に気が付いた」
- 満足感や充実感等の味わい直し
  「時間が短く感じた」
- 次の学びへの期待、思いや願い
  「もっとやりたくなった」

ふわたしは、今日の実験から試験管の水は下からあたためると、全体があたたまることがわかりました。よく見ると、水が動いているように感じたので、次の実験で解決したいと思いました。

ふぼくは、みんなと協力して実験できました。試験管の上の部分だけを熱しても、水全体はあたたまらなかったので、水と金属は、あたたまり方がちがうのだと思いました。次回も楽しみです。

子どもは「振り返り」を通して、本時の学びを自分の学びとして深めます。
「振り返り」は、子ども達を成長させ、次の学びへとつなげます。

学びは
一人一人の子どもの中に成立します
自分から始まり学び合いを通して
自分に帰ります

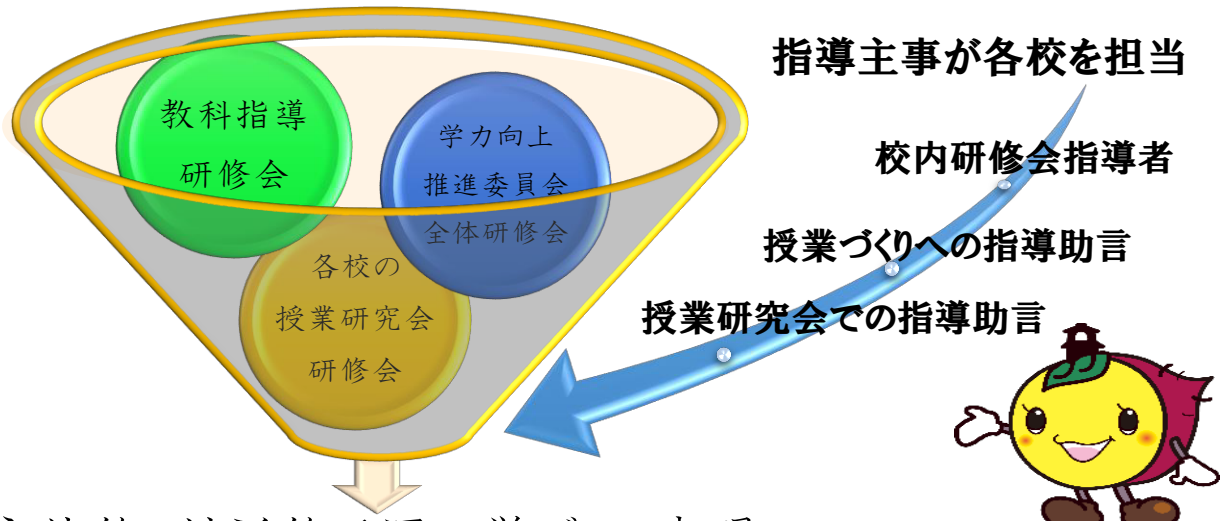
授業は
知識・技能を身に付け資質・能力を育成し
一人一人の学びを深化させ
一人一人を成長させる営みです

授業スタンダード

「めあて・見通し・学び合い・まとめ・振り返り」

今後の計画（3カ年計画）

令和2年度 理解・共有 → 令和3年度 定着 → 令和4年度 深化



「主体的・対話的で深い学び」の実現へ

アドバイザー：嶋野　道弘　氏